



中央大学 ボランティアセンター 報告書

2021

ボランティアで、世界を変える。自分を変える。



目 次

● ご挨拶	P.1
● 概要	P.2
● 利用集計	P.3
● 取組記録	P.4
● 活動報告	P.6
1. 主催事業	P.6
①被災地・復興支援活動	P.6
②地域活動	P.6
③講座・説明会等	P.8
④報告・発表等	P.11
2. ボランティアセンター公認学生団体	P.12
①被災地・復興支援活動	P.13
はまぎくのつぼみ	P.13
面瀬学習支援	P.14
チーム女川	P.15
ふらっと真備	P.16
チームくまもと	P.17
②地域活動	P.18
チーム防災	P.18
りこボラ！	P.19
3. 学生スタッフ	P.20
● 協定・助成金／メディア掲載	P.21

ご挨拶

ボランティアセンター長 / 副学長(学生総合支援担当) / 学生部長 鳥居 伸好

コロナ禍での制約された社会生活において、人と人との繋がりを基にするボランティア活動は、支援する側も受入れる側も大きな制約を受けざるをえません。しかし、その中でも得るものがあります。コロナ感染症が世界中を襲った未曾有の災害であることを考えれば、そこで何を学ぶのかは、ボランティア活動と相通じます。コロナ感染症は、すべての人間が被災対象となりますので、被災者の気持ちになって、どのような対応が必要なのかを考える機会が与えられます。痛みを知る人あるいはその痛みに関心できる人は、他者と協調し、他者を思いやる心や感動する心を醸成させます。それは、ボランティアを通しての学びや人間力の向上に繋がります。

2021年度のボランティアセンターの活動は、コロナ禍による制約を受けましたが、それでも、ボランティア活動に積極的に取り組んだボランティア学生団体、学生の皆さんや教職員の皆さんがいます。どのような災害状況、社会状況であろうとも、ボランティアを通しての人と人との繋がりは、人の心を豊かにし、社会を豊かにします。そのことが、今年度も実践されました。活動に参加された皆さんに敬意を表します。また、今年度は、ボランティアセンターの学生スタッフが組織化され、今後のボランティア活動の広がりが期待されています。学生の皆さんがボランティア活動を通して自らを成長させ、学ぶことのできる様々な機会を提示すること、そしてその活動を支援することがボランティアセンターの役割といえます。2021年度は、コロナ禍にあっても、その一定の役割を担いました。このようなボランティアセンターの活動に、ご理解とご支援をいただきました皆さまに、心より感謝申し上げます。



ボランティアコーディネーター 開澤 裕美

2021年度は、with コロナの中、どのように健康でありつつも社会との接点を保っていくか、知恵と工夫が試された一年であったように感じます。コロナ禍で見えてきたものとは、やはり人間は一人では生きていくことはできず、社会や他人とともに対話し、ともに場を共有し、喜怒哀楽を表現することで「生きていることを実感できる」ものと確信できました。

人とのつながりが失われ、大学生だけでなく社会全体が管理的になり、行き苦しさを感じる中、人と人とのつながりで成り立つボランティア活動の在り方を模索した2020年度。オンラインというツールも取り入れながらも、やはり対面でないという限界があり、感染対策に気を付けながら対面活動を実施することができていった2021年度。気仙沼や真備、丸森で中大生を受け入れてくださった地域の皆さまには、心より御礼を申し上げます。

2021年度は、ボランティアセンターにとって、大きな出来事が2つありました。1つは、公認学生団体「はまぎくのつぼみ」「チーム女川」「チームくまもと」の3団体が、2021年度末をもって活動を収束したことです。それぞれの団体が、これまでの活動を後世へつないでいくための活動記録誌を制作しました。当初は団体を閉じる決断をすることになり「地域や先輩たちに申し訳ない気持ち」から、活動記録誌を作る過程を経て「記録として残すことで恩返しができ誇らしい気持ち」になったという、ある団体の代表学生が語った言葉が印象的でした。長年、学生を受け入れてくださった地域の皆さまに、改めて感謝の気持ちで一杯です。

もう1つは、学生目線でボランティア活動の魅力を伝えたり、職員と一緒に企画運営を行う「学生スタッフ」を新たに設置することができたことです。今後は、大学生ならではの発想力で社会とつながり、社会を変える原動力になれるようなボランティアセンターとして、学生と一緒に一歩一歩、着実に歩んでいきたいと思っております。

2021年度も、学生の想いを形にすべくご協力いただいた全ての皆さまに心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



概要

● 設立のあゆみ

2011年3月 学生部学生課主導で校内募金活動実施
2011年8月 学生課主催により学生ボランティアを宮城県気仙沼市に派遣
2012年4月 東日本大震災被災地支援団体ネットワーク設立
2013年4月 ボランティアステーション設置
2015年4月 ボランティアセンター設立

● 理念・目的等

東日本大震災を契機に、学生のボランティア活動を支援するため、学内調整を経て設立されました。志はあるが必ずしも方法論を持っていない学生たちにヒントを与え、相談に乗り、ロジスティックスの支援をすることを通じて、自発的な学生の活動をサポートしています。事前事後学習や傾聴講座など、現場経験を学生の学びと言語化に繋げることを重視しています。

● 運営委員

一号委員	経済学部	鳥居 伸好	三号委員	文学部	山科 満	四号委員	学生部事務室	山ノ井和哉
二号委員	国際経営学部	国松 麻季		理工学部	田口 善弘	学生生活課	岡田 健二	
三号委員	法学部	西 亮太		総合政策学部	宮下 紘	学生生活課	開澤 裕美	
	経済学部	大羽 良		国際経営学部	陳 建安			
	商学部	中村 亨		国際情報学部	松崎 和賢			

● 公認学生団体 顧問

はまぎくのつぼみ	文学部	山科 満	ふらっと真備	法学部	中澤 秀雄
	文学部	吉野 朋美	チームくまもと	法学部	平山 令二
面瀬学習支援	法学部	猪股 孝史	チーム防災	法学部	宮本 航平
	法学部	西 亮太	りこボラ!	商学部	中村 亨
チーム女川	法学部	中澤 秀雄		理工学部	田口 善弘

● 活動内容

被災地・復興支援活動

被災地の一刻も早い復興を願い、学生ボランティアによる支援を行っています。被災地支援ボランティアを行う学生への活動費補助やボランティアセンター主催のプログラムを実施しています。

また、東北学院大学を拠点校におく「大学間連携災害ボランティアネットワーク」に加盟しています。

< ボランティアセンター公認学生団体 >

- ・はまぎくのつぼみ (岩手県宮古市/コミュニティ支援) ・面瀬学習支援 (宮城県気仙沼市面瀬/学習支援)
- ・チーム女川 (宮城県牡鹿郡女川町/地域支援) ・ふらっと真備 (岡山県倉敷市真備町/コミュニティ支援)
- ・チームくまもと (熊本県阿蘇郡西原村/コミュニティ支援)

地域活動

環境・農業・福祉・まちづくりなど、近隣の社会福祉協議会や団体などのボランティア情報を提供しています。また、災害時に学生が自分の命を守り、周囲の助けとなることができる実技講座や、ボランティア初心者の方でも参加しやすい企画を実施しています。

< ボランティアセンター公認学生団体 >

- ・チーム防災 (多摩キャンパス周辺/防災啓発活動) ・りこボラ! (後楽園キャンパス周辺/ボランティア啓発活動)

< 多摩キャンパス実績 >

- ・落川交流センター ・クリーン大作戦 (キャンパス内外でのごみ拾い) ・せせらぎ農園 ・フュージョン長池

< 後楽園キャンパス実績 >

- ・ちんじゅの森 ・さきちゃんち

< オンライン実績 >

- ・岡上小学校わくわくプラザ (川崎市) ・福祉カフェサロン (日野市) ・リンクス櫛田 (八王子市)
- ・コペンハーゲン日本人補習学校 (デンマーク) ・ヴィネツィア大学 (イタリア)

ボランティア育成プログラム

初めての人から経験者まで、ボランティア活動がより充実するための、スキルアップ講座を実施しています。

学生スタッフ

ボランティアセンターの運営を学生目線から支える学生スタッフ制度を2021年度より開始しました。ボランティアセンター主催プログラムの企画から運営、ボランティアの魅力伝える活動など、学生発信のプログラムを実施しています。

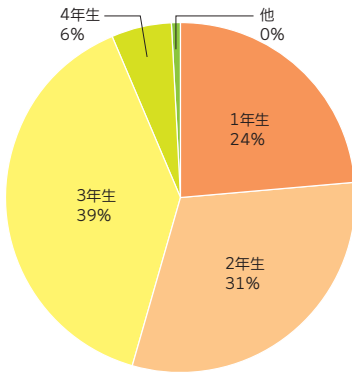
利用集計

● ボランティアセンター相談者数統計（人）

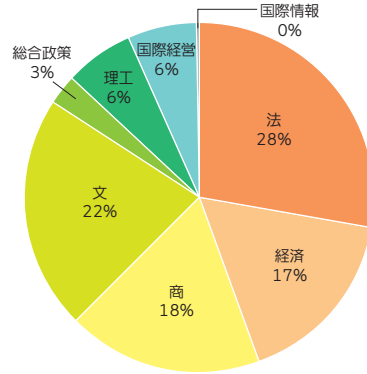
◆ 相談者数

月	相談者	内訳	男	女	法	経	商	文	総	理	国経	国情	1	2	3	4	他
4月	95	オンライン 22 対面 73	52	43	37	13	21	13	8	1	2		11	13	67	4	
5月	87	オンライン 46 対面 41	29	58	25	13	14	19	3	8	5		19	19	45	3	1
6月	201	オンライン 117 対面 84	68	133	58	42	27	40	2	19	13		50	44	92	13	2
7月	70	オンライン 41 対面 29	25	45	12	8	13	12	4	16	5		16	24	28		2
8月	28	オンライン 21 対面 7	14	14	9	4	4	7	1	2	1		4	11	11	2	
9月	60	オンライン 50 対面 10	19	41	16	10	14	11	1	4	4		13	19	24	4	
10月	113	オンライン 45 対面 68	54	59	32	24	22	21	2	2	10		27	43	33	9	1
11月	153	オンライン 76 対面 77	56	97	45	22	26	38	2	3	17		49	49	46	9	
12月	76	オンライン 21 対面 55	35	41	19	14	17	19	1	1	5		17	22	29	8	
1月	39	オンライン 6 対面 33	25	14	7	4	8	16		2	2		5	19	14	1	
2月	29	オンライン 16 対面 13	19	10	5	5	8	9	1	1			10	15	2	2	
3月	62	オンライン 20 対面 42	34	28	18	9	10	15	2	7		1	20	33	6	3	
合計	1013	オンライン 481 対面 532	430	583	283	168	184	220	27	66	64	1	241	311	397	58	6

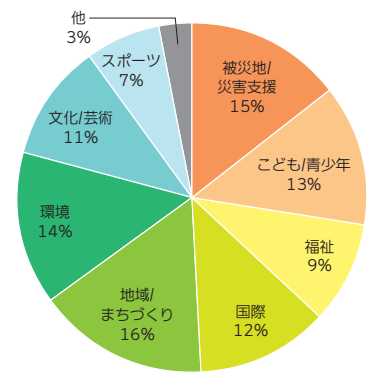
■ 学年別割合



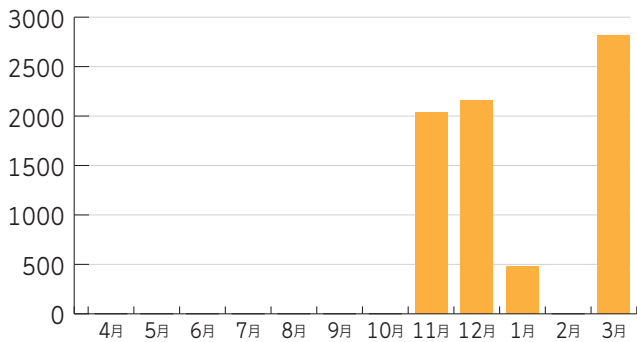
■ 学部別割合



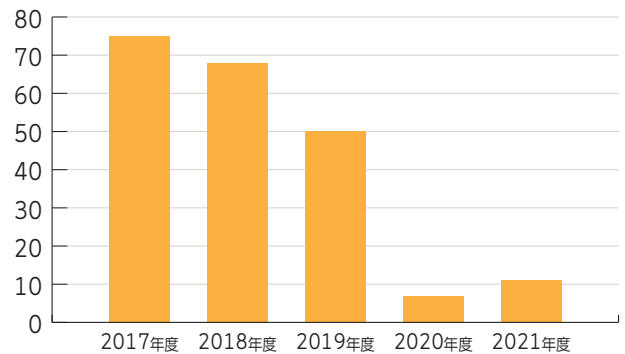
■ 興味のある分野別割合



■ ボランティアセンタールーム利用記録（分）



■ ボランティアセンタールーム本貸出記録（冊）



取組記録

1. 主催・共催事業

① 被災地・復興支援活動

活動タイトル	活動概要	日程	活動日数	学生参加人数
宮城県丸森町 春のボランティア活動	2019年10月に発生した台風19号の被害を受けた宮城県丸森町におけるボランティア活動	3/3(木)~3/5(土)	3	16
			小計	3 16

② 地域活動

活動タイトル	活動概要	日程	活動日数	学生参加人数
オンライン夏ボラ 【子ども編】川崎市岡上小学校わくわくプラザ	1,2年生中心の子どもを対象としたオンラインによる夏のボランティア活動	8/18(水)	1	5
CVC版夏ボラ 【子ども①】みなみさくら児童館ぶらなっと(中止)	キャンパス周辺地域での分野別ボランティア活動(子ども①)レク運営、工作、消毒等の手伝い	9/1(水)	-	-
オンライン夏ボラ 【福祉編・高齢者】日野市/福祉カフェサロン	認知症の高齢者の方々を対象としたオンラインによる夏のボランティア活動	9/2(木)~9/3(金)	2	3
CVC版夏ボラ 【子ども②】子どもへのまなざし(中止)	キャンパス周辺地域での分野別ボランティア活動(子ども②)川仲田の森蚕糸公園での子どもと遊ぶ活動	9/3(金)	-	-
CVC版夏ボラ 【福祉】東京光の家(中止)	キャンパス周辺地域での分野別ボランティア活動(福祉)視覚障がい者就労施設での手伝い	9/3(金)	-	-
オンライン夏ボラ 【国際編・デンマーク】コペンハーゲン日本人補習学校	日本にルーツのあるデンマーク在住の子ども達(5,6年生)を対象としたオンラインによる夏のボランティア活動	9/4(土)	1	6
CVC版夏ボラ 【環境】フュージョン長池(中止)	キャンパス周辺地域での分野別ボランティア活動(環境)公園整備、池の清掃、生き物調査	9/6(月)	-	-
オンライン夏ボラ 【福祉編・障がい者】八王子市/リンクス柗田	障がいのある方(5名程度)を対象としたオンラインによる夏のボランティア活動	9/6(月)~9/7(火)	2	3
CVC版夏ボラ 【子ども①】みなみさくら児童館ぶらなっと(中止)	キャンパス周辺地域での分野別ボランティア活動(子ども①)レク運営、身体を動かす遊び、消毒等の手伝い	9/8(水)	-	-
CVC版夏ボラ 【農業】コミュニティガーデン・せせらぎ農園(中止)	キャンパス周辺地域での分野別ボランティア活動(農業/コミュニティガーデンでの農作業)	9/9(木)	-	-
CVC版夏ボラ 【福祉】東京光の家(中止)	キャンパス周辺地域での分野別ボランティア活動(福祉)視覚障がい者就労施設での手伝い	9/10(金)	-	-
オンライン夏ボラ 【国際編・イタリア】ヴィネツィア大学	イタリアで日本語を学んでいる大学2年生を対象としたオンラインによる夏のボランティア活動	9/15(水)	1	7
後楽園キャンパス周辺地域ボランティア活動 【環境編】ちんじゅの森	自然と共存する生活の知恵を学び、次世代に伝え繋げていくことを実践するNPO法人ちんじゅの森と協力し、草刈りなどの環境整備、ウッドデッキのペンキ塗りを行う	10/24(日)	1	8
多摩キャンパス周辺地域ボランティア活動 【農業編】せせらぎ農園	コミュニティガーデンせせらぎ農園での農作業	10/28(木)	1	16
多摩キャンパス周辺地域ボランティア活動 【環境編】フュージョン長池	草刈りや間伐などの雑木林の管理活動を行うことにより、希少な植物の保護や豊かな里山保全に繋げる	11/6(土)	1	12
多摩キャンパス周辺地域ボランティア活動 【地域づくり編②】落川交流センター ごみゼロ収穫祭	地域の交流の場である落川交流センターでの秋の収穫祭の運営手伝い	11/14(日)	1	7
後楽園キャンパス周辺地域ボランティア活動 【地域づくり編①】さきちゃんち	子どもからお年寄りまで、地域の人々が集い皆にとって居心地の良い環境をつくる「ワークスペースさきちゃんち」で居場所作りの手伝い	11/27(土)	1	8
クリーン大作戦・秋の輝	多摩キャンパス周辺の清掃	11/28(日)	1	10
Project COOP×りこボラ! 後楽園クリーン大作戦	後楽園キャンパス周辺のごみ拾い	3/1(火)	1	25
Project COOP×りこボラ! 後楽園クリーン大作戦	後楽園キャンパス周辺のごみ拾い	3/8(火)	1	24
小石川中等学校 防災授業	HUG(避難所運営ゲーム)のサポート	3/17(木)	1	8
			小計	16 142

③ 講座・説明会等(オンライン・対面)

活動タイトル	活動概要	日程	活動日数	学生参加人数
オンライン・ボラカフェ#1 ボランティアってどんなもの??	ボランティアについての基本的な説明や、内容、種類、魅力などを説明	4/22(木)	1	13
オンライン・ボラカフェ#2 ボランティアってどんなもの??	ボランティアについての基本的な説明や、内容、種類、魅力などを説明	4/26(月)	1	12
学生スタッフ説明会1	募集する学生スタッフの活動内容、応募条件、選考スケジュール等についての説明会	4/27(火)	1	15
学生スタッフ説明会2	募集する学生スタッフの活動内容、応募条件、選考スケジュール等についての説明会	4/30(金)	1	12
中大ボランティア団体合同新歓&交流会	団体説明 8団体×5分、交流会	5/2(日)	1	70
公認学生団体 スタートアップセミナー	2021年度の体制、それぞれの現状、2021年度の活動、フィールドノートについて、組織を動かすことについて	5/8(土)	1	31
オンライン・ボラカフェ #3 分野別ボランティア紹介①	環境、農業、子どもに関するボランティアの紹介	5/11(火)	1	12
オンライン・ボラカフェ #4 分野別ボランティア紹介①	環境、農業、子どもに関するボランティアの紹介	5/14(金)	1	11
オンライン・ボラカフェ #5 分野別ボランティア紹介②	国際、地域活性化、福祉、災害、オリパラに関するボランティアの紹介	5/17(月)	1	19
オンライン・ボラカフェ #6 分野別ボランティア紹介②	国際、地域活性化、福祉、災害、オリパラに関するボランティアの紹介	5/19(水)	1	9
理工学部ボランティアオリエンテーション 連続ボランティア講座 #1	文京区社会福祉協議会によるボランティアの紹介資料、学生の体験談を収録した動画の公開 滝井元視氏による講座【公務員に求められる力】とボランティア活動 就活や公務員試験で問われること】	5/31(月)~6/1(火) 6/11(土)	2	-
横原聡美氏講演会・ワークショップ 【被災者が伝える、西日本豪雨災害】	横原聡美氏による講演、ワークショップ、質疑応答	6/12(土)	1	32 (一般11)
連続ボランティア講座 #2	山中晶一氏による講座【これからの公共とその抱い手とは?】	6/18(金)	1	25
連続ボランティア講座 #3	鈴木健太郎氏による講座【企業は社会課題をどう克服しようとしているのか~ソーシャルビジネスで世界を変える】	6/25(金)	1	21
連続ボランティア講座 #4 力を引き出すワークショップ① 【コミュニケーション講座】	池田木綿奈氏、八坂あゆみ氏による講座【ボランティア経験をもとに社会で活かすか?卒業生の活躍から学ぶ】 竹部友子氏による、グループワークを交えた自分も相手も大切にしたい自己表現であるコミュニケーションのコツを学ぶ講座	7/3(土) 7/10(土)	1	24 16
オンライン夏ボラ 事前勉強会 CVC版夏ボラ 事前勉強会 CVC版夏ボラ 事前勉強会 公認学生団体 決起集会	ボランティアについて、心構え、参加するボランティアの背景、課題、目的、個人の目標設定と共有 ボランティアについて、心構え、参加するボランティアの背景、課題、目的、個人の目標設定と共有 ボランティアについて、心構え、参加するボランティアの背景、課題、目的、個人の目標設定と共有 各団体の状況シェア、フリートーク	7/26(月) 8/4(水) 8/5(木) 9/17(金)	1 1 1 1	23 31 17 63
オンライン夏ボラ 事後勉強会&振り返り会① 力を引き出すワークショップ② 【やる気を引き出す、巻き込む】	グループワークによって自分の参加したボランティアを言語化する 西川正氏による、人のやる気を引き出したり、活動に巻き込むコツについて学ぶワークショップ	9/18(土) 9/25(土)	1 1	16 11
オンライン夏ボラ 事後勉強会&振り返り会② 秋ボラ・事前オリエンテーション① 秋ボラ・事前オリエンテーション② 【アナタの想いを企画しよう!】 ワークショップvol.1	グループワークによって自分の参加したボランティアを言語化する ボランティアの心構え、活動内容、持ち物、コロナ感染予防策について ボランティアの心構え、活動内容、持ち物、コロナ感染予防策について 社会課題を解決するために、自分の【何かしたい】企画を割りあげ、実行するまでの過程を学ぶ	9/27(月)9/28(火) 10/19(火) 10/21(木) 10/23(土)	1 1 1 1	8 10 10 14
理工学部ボランティアオリエンテーション 福島・大熊町より、想いを伝えるオンラインイベント 【被災地の現状を知り、現在を問う】	文京区社会福祉協議会によるボランティアの紹介資料、学生の体験談を収録した動画の公開 福島県大熊町より木村紀夫氏とつないで行うオンラインイベント	11/18(木) 11/20(土)	1 1	- 12
コロナ感染対策勉強会 【アナタの想いを企画しよう!】 ワークショップvol.2 力を引き出すワークショップ③ 経験を【つき】に活かすワークショップ ~自分の経験を深掘りし振り返りに伝えるコツを学ぶ~	年末に宿泊を伴う活動を企画している3団体に対する、コロナ感染対策についての勉強会 りこボラと学生スタッフを対象にした社会課題を解決するために、自分の【何かしたい】企画を割りあげ、実行するまでの過程を学ぶ 滝井元視氏による経験をキャリアに活かすためのワークショップ	12/5(日) 12/5(日) 12/27(月)	1 1 1	11 11 12
宮城県丸森町春のボランティア活動 説明会①	3月に実施する活動について現地の様子や活動プログラムの説明	1/25(火)	1	14
宮城県丸森町春のボランティア活動 説明会②	3月に実施する活動について現地の様子や活動プログラムの説明	1/27(木)	1	27

活動タイトル	活動概要	日程	活動日数	学生参加数
社会人になる前に防災について考えてみよう! ～大学での突然の災害、どうやって命を守るか～	白門一新会企画による、七十七銀行女川支店の事例をもとにした企業防災を考えるイベント	2/12(土)	1	6
宮城県丸森町春のボランティア活動 オリエンテーション①	活動に行くにあたっての準備、スケジュール等についてのオリエンテーション	2/17(木)	1	5
宮城県丸森町春のボランティア活動 オリエンテーション②	活動に行くにあたっての準備、スケジュール等についてのオリエンテーション	2/21(月)	1	6
公認学生団体4年生から下級生へ伝えたいこと企画	公認学生団体の4年生から下級生へ伝えたいことについて共有し、意見交換・交流する企画	3/2(水)	1	21
			小計	39
				694

④ 報告・発表等

活動タイトル	活動概要	日程	活動日数	学生参加数
ボランティアセンターシンポジウム (オンライン)	NPO 法人 Dialogue for People による世界の紛争地や被災地、国内の被災地の現状と課題、大学生に伝えたい思いなどについての講演会	2/4(金)	1	6
大学生ボランティア活動展 (ポラネット多摩) ～えっ?多摩地域でこんなことをしていたの!??～	多摩地区の大学と地域によるネットワークの活動パネル展示、 防災ゲーム (人間防災すごろく、防災百人一首) 等	3/12(土)	1	10
			小計	2
				16

2. ボランティアセンター公認学生団体

① 被災地・復興支援活動

活動タイトル	活動概要	日程*	活動日数	学生参加数
ふらっと真備 倉敷市社会福祉協議会へのヒアリング	オンラインでの倉敷市の現状のヒアリング	10/22(金)	1	6
ふらっと真備 倉敷市社会福祉協議会へのヒアリング	オンラインでの倉敷市の現状のヒアリング	10/24(日)	1	10
ふらっと真備 冬活動	仮設住宅等でのヒアリング、イベント手伝い	12/17(金)～12/19(月)	3	4
面瀬学習支援 冬活動	子どもの遊び場づくり等	12/26(日)～12/28(火)	3	31
ふらっと真備 春活動	スタディーツアー、写真洗浄	3/21(日)～3/22(水)	2	2
			小計	10
				53

*車中泊を含みます

② 地域活動

■ チーム防災

活動タイトル	活動概要	日程	活動日数	学生参加数
チーム防災 [防災王]第1回決定戦!!(オンライン)	日野市主催オンライン講座における防災に関するクイズ大会	8/28(土)	1	13
日野市第6小学校 防災授業	小学生を対象にした防災クイズなどを盛り込んだ防災授業	10/16(土)	1	11
			小計	2
				24

■ りこボラ!

活動タイトル	活動概要	日程	活動日数	学生参加数
りこボラ!交流会(オンライン)	りこボラ!のメンバーでの交流会	4/11(日)	1	20
りこボラ!第1回ボラカフェ(オンライン)	雑談形式で行う体験談の共有、懇談会	4/24(土)	1	16
りこボラ!交流会(オンライン)	りこボラ!のメンバーでの交流会	4/25(日)	1	15
りこボラ!新入生雑談会(オンライン)	雑談形式の新入生交流会	5/1(土)	1	13
りこボラ!新歓交流会(オンライン)	りこボラ!のメンバーでの新歓交流会	5/9(日)	1	18
りこボラ!総会1(オンライン)	りこボラ!の運営説明、団体理念の共有、目標設定等	5/15(土)	1	28
りこボラ!総会2(オンライン)	りこボラ!の運営説明、団体理念の共有、目標設定等	5/16(日)	1	75
りこボラ!交流会(オンライン)	りこボラ!のメンバーでの交流会	6/5(土)	1	13
りこボラ!交流会(オンライン)	りこボラ!のメンバーでの交流会	6/19(土)	1	19
りこボラ!運営親睦会(オンライン)	りこボラ!の運営メンバーでの交流会	6/26(土)	1	15
りこボラ!交流会(オンライン)	りこボラ!のメンバーでの交流会	7/11(日)	1	16
りこボラ!夏の活動 事前勉強会(オンライン)	ボランティアについて、心構え、参加するボランティアの背景、課題、目的、個人の目標設定と共有	7/27(火)	1	20
りこボラ!ボランティア相談室【教育系】(オンライン)	運営メンバーがボランティアについての相談を受け、ボランティアの提案やアドバイスを行う	8/28(土)	1	3
りこボラ!ボランティア相談室【スポーツ系】(オンライン)	運営メンバーがボランティアについての相談を受け、ボランティアの提案やアドバイスを行う	8/29(日)	1	5
りこボラ!ボランティア相談室【地域・福祉系】(オンライン)	運営メンバーがボランティアについての相談を受け、ボランティアの提案やアドバイスを行う	8/30(月)	1	6
りこボラ!ボランティア相談室【環境系】(オンライン)	運営メンバーがボランティアについての相談を受け、ボランティアの提案やアドバイスを行う	8/31(火)	1	4
りこボラ!夏のボランティア活動(ちんじゅの森)(中止)	自然と共存する生活の知恵から学び、次世代に伝え続けていくことを実践するNPO法人ちんじゅの森と協力し、農作業や草刈りを行う	9/2(木)	-	-
りこボラ!夏のボランティア活動(さきちゃんち)(中止)	子どもからお年寄りまで、地域の人々が集い皆にとって居心地の良い環境をつくる「ワークスペースさきちゃんち」の立ち上げ準備の手伝い	9/2(木)	-	-
りこボラ!夏のボランティア活動(春日臨時保育所)(中止)	後楽園キャンパス近くの春日臨時保育所に通う5歳児7人が楽しめるような企画を準備し、遊ぶ	9/14(火)	-	-
りこボラ!夏のボランティア活動(坂道の会)(中止)	後楽園キャンパス周辺、富坂～六角坂の植栽の剪定を定期的に行っている「坂道の会」の植栽の手入れと掃除の手伝い	9/14(火)	-	-
りこボラ!クリーン作戦	後楽園キャンパス周辺の清掃	11/13(土)	1	19
りこボラ!第2回ボラカフェ(オンライン)	雑談形式で行う体験談の共有、懇談会	11/21(日)	1	16
りこボラ!交流会(オンライン)	りこボラ!のメンバーでの交流会	11/25(木)	1	18
りこボラ!クリーン作戦	後楽園キャンパス周辺の清掃	12/12(日)	1	19
りこボラ!交流会(オンライン)	りこボラ!のメンバーでの交流会	12/16(木)	1	15
りこボラ!合宿	運営・活動についての話し合い	12/26(日)～12/27(月)	2	19
りこボラ!交流会(オンライン)	りこボラ!のメンバーでの交流会	2/20(日)	1	11
りこボラ!交流会	りこボラ!のメンバーでの交流会	3/9(水)	1	13
			小計	29
				416

3. 学生スタッフ

活動タイトル	活動概要	日程	活動日数	学生参加数
学生スタッフ 合宿	オリンピックセンターに宿泊して行う今後の活動についての話し合い	12/26(日)～12/27(月)	2	10
			小計	2
				10

4. 外部での報告・発表等

① 学生

活動タイトル	活動概要	日程	活動日数	学生参加数
大学・短大における学生ボランティア活動支援連絡会	「各大学のボランティア活動支援のあり方」等をテーマとしている連絡会でのコロナ禍をどのように過ごしてきたかについての学生の報告	12/18(土)	1	1
跡見学園女子大学シンポジウム(オンライン) 「コロナ禍における大学の地域交流活動の展開可能性」	りこボラ!の学生による「つながりを止めるな!りこボラ!の挑戦」という内容の活動発表	12/25(土)	1	1
			小計	2
				2

② 職員

活動タイトル	活動概要	日程	活動日数	学生参加数
大学ボランティアセンター職員セミナー	セミナーにおける事例紹介【中央大学の取り組みについて(学内調整)】	9/9(木)	1	-
Gakuvo主催「コロナ禍での対面活動」勉強会	全国の学生ボランティアに関わる職員の勉強会での事例発表	11/11(木)	1	-
関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会	連絡協議会における事例報告【コロナ禍での大学VCの取り組み-対面活動の工夫】	12/13(月)	1	-
2021年度大学間連携災害ボランティアシンポジウム(オンライン)	「新型コロナウイルス感染症を契機に問直す大学における学生ボランティア教育の展望」をテーマにしたパネルディスカッション	1/29(土)	1	-
令和3年度 八王子地域学生活動連絡会フォーラム	八王子の大学と市民団体の協働体制づくりに向け開催されるフォーラムにおける学生ボランティアに関する事例紹介等	2/5(土)	1	1
			小計	5
				1
			合計	110
				1374

活動報告

1. 主催事業

① 被災地・復興支援活動

● 宮城県丸森町春ボラ

2019年10月に発生した台風19号の被災地である宮城県丸森町において、2019年12月25日～27日に学生20人と共にボランティア活動を行いました。その後2020年3月と8月に再度訪問する予定でしたが、コロナ禍のため実施できないままとなっていました。感染対策に気を付けながら、2022年3月によろやく春ボラを実施することができました。

丸森町の方々は、その時期の社会情勢の中でできる活動を工夫して受け入れてくださり、学生にとっては貴重で学びの多い素晴らしい経験となりました。当日は、テレビ局3社による取材が入り、活動の様子を宮城県内のニュースで放映していただきました。

日時	2022年3月3日(木)～5日(土)
場所	宮城県伊具郡丸森町
内容	・大内地区にて、土砂で埋まっている道路側溝や農業用水路の土砂撤去 ・支援が届きにくい筆甫地区にて、ゲストハウス周辺の竹林整備、田んぼの側溝の土砂払い ・阿武隈川沿いの竹林整備
参加者	学生16、教職員2
助成	朝日新聞厚生文化事業団



② 地域活動

● オンライン夏ボラ

コロナ禍でもより多くボランティア参加の機会を提供するため、オンライン夏ボラを実施しました。学生スタッフが2人ずつ入ってチームをまとめ、各回とも5回程度ミーティングを行って準備しました。海外と繋いで行う企画は初めてでしたが、大きなトラブルもなく無事に終わることができ、受入先・学生側双方に好評でした。

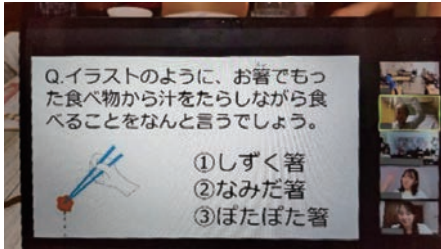
	日時	対象	参加者
子ども編	8月18日(水) 10:30～11:30	川崎市・わくわくプラザに通う子ども達	学生5
福祉編・高齢者	9月2日(木)、9月3日(金) 14:30～15:30	日野市の認知症福祉カフェの高齢者	学生3
国際編・デンマーク	9月4日(土) 18:30～19:15	コペンハーゲン日本語補習学校の子ども達	学生6
福祉編・障がい者	9月6日(月)、9月7日(火) 13:45～14:15	八王子市の障がい者施設の利用者	学生3
国際編・イタリア	9月15日(水) 17:30～20:45	ヴェネツィア大学の大学2年生	学生7



【子ども編】



【福祉編・高齢者】



【国際編・デンマーク】



【福祉編・障がい者】



【国際編・イタリア】

● 多摩・後楽園キャンパス周辺地域ボランティア

10月から対面でのボランティア活動ができるようになり、夏ボラで実施する予定であった活動場所を中心に7回の活動を企画し、当日は合計80人の学生が参加しました。緊張しながら初めて参加する学生や何度も参加する学生など、皆それぞれが社会課題に取り組むNPOや受入団体の方々の話に大いに刺激を受けた様子でした。

	日時	場所	内容	参加者
1	ちんじゅの森 10月24日(日) 13:00～15:00	ちんじゅの森サロン『ほくほぐ』 (東京都文京区目白台)	草刈りなどの環境整備、ウッドデッキのペンキ塗り	学生 8 職員 1
2	せせらぎ農園 10月28日(木) 9:00～12:00	コミュニティガーデン・せせらぎ農園 (東京都日野市新井)	農作業	学生 16 職員 1
3	フュージョン長池 11月6日(土) 9:00～12:00	長池公園 (東京都八王子市)	草刈り、間伐などの里山保全活動	学生 12 職員 1
4	落川交流センター ごみゼロ収穫祭 11月14日(日) 9:00～14:00	落川交流センター (東京都日野市)	ごみゼロ収穫祭の準備、運営手伝い	学生 7 職員 1
5	さきちゃんち 11月27日(土) 13:30～17:00	ワークスペースさきちゃんち (東京都文京区白山)	居場所作りのお手伝い。DIY、今後のプランの話し合い	学生 8 職員 1
6	クリーン大作戦・ 秋の陣 11月28日(日) 9:00～11:30	多摩キャンパス周辺 (東京都八王子市)	谷津入自治会の方々と協同で行う多摩キャンパス周辺のゴミ拾い	学生 10 職員 2



【ちんじゅの森】



【せせらぎ農園】



【フュージョン長池】



【落川交流センター ごみゼロ収穫祭】



【さきちゃんち】



【クリーン大作戦・秋の陣】

3 講座・説明会等

● 連続ボランティア講座

社会課題に取り組むボランティア全般を知り、自分のキャリアにどのようにつなげていくかを考えるきっかけとすること、また各分野で社会課題に取り組む方の話を聞き、自分のボランティアキャリアについて考えるきっかけとすることを目的に、オンラインにて連続ボランティア講座（全4回）を行いました。

◆ 第1回『「公務員に求められる力」とボランティア活動 就活や公務員試験で問われること』

日時	6月11日（金）17:00～18:10
場所	オンライン（Zoom）
講師	滝井元視氏（キャリア・コンサルタント、元日野市職員、中大OB）
参加者	学生42、職員1

◆ 第2回「これからの公共とその担い手とは？」

日時	6月18日（金）17:00～18:10
場所	オンライン（Zoom）
講師	山中晶一氏（高知市役所）
参加者	学生25、職員1

◆ 第3回「企業は社会課題をどう克服しようとしているのか ～ソーシャルビジネスで世界を変える」

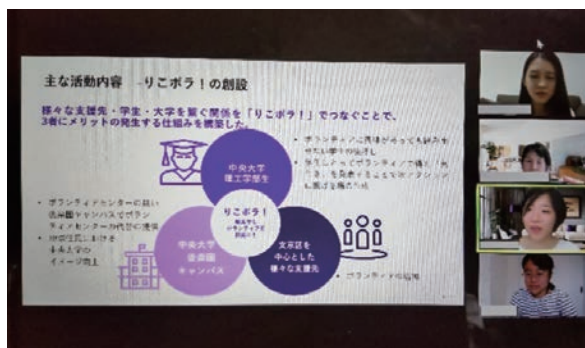
日時	6月25日（金）17:00～18:10
場所	オンライン（Zoom）
講師	鈴木健太郎氏（株式会社ボーダレス・ジャパン採用広報担当）
参加者	学生21、職員1

◆ 第4回「ボランティア経験をどのように社会で活かすか？卒業生の活躍から学ぶ」

日時	7月3日（土）10:00～11:20
場所	オンライン（Zoom）
講師	池田木綿奈氏（アクセンチュア株式会社）、八鍬あゆみ氏（仙台市役所）
参加者	学生24、職員1



【講座ポスター】



【講座の様子】

● 榎原聡美氏 講演会・ワークショップ

◆ 「被災者が伝える、西日本豪雨災害 ～大切な人を守るための備えとは～」

「防災」というと、地震に対する備えに注目し、水害に対しての備えの意識はあまり高くない現状があります。そこで大学生をはじめ多くの人に水害や防災について知るきっかけを提供するとともに、「他人事から自分事へ」という意識を参加者に持っていただくために、この講演会を実施しました。

公認学生団体 ふらっと真備の活動地である、岡山県倉敷市真備町で活動されている「川辺復興プロジェクトあるく」代表の榎原聡美氏より講演をしていただいた後、水害や防災を「自分事」として考えるために小グループに分かれてワークショップを行いました。大学生はもちろん、チーム防災の活動拠点である日野市の市民にも参加を積極的に呼びかけ、多くの方にご参加いただきました。

日時	6月12日(土) 14:00～16:00
場所	オンライン (Zoom)
講師	榎原聡美氏 (川辺復興プロジェクトあるく代表)
内容	第1部：榎原さん講演 (体験談を踏まえて防災について) 65分 第2部：小グループに分かれてワークショップ 20分 第3部：質問&深める時間 20分
参加者	学生 32、一般 11



【イベントポスター】



【ワークショップの様子】

● 力を引き出すワークショップ

ボランティア活動を行うためには、様々な力が必要となります。そういった力を認識し、学び、身に着けていけるようなワークショップを行いました。学生の内なる力を引き出し、将来的に社会で活躍できる人材としてのスキルとなることを目指しています。

◆ 第1回 「コミュニケーション講座 ～アサーティブな自己表現とは？聴き方&話し方のコツ」

日時	7月10日(土) 14:00～15:30
場所	オンライン (Zoom)
内容	グループワークを交えて、聴き方、話し方のコツを学ぶ
講師	竹部友子氏 (学生相談室カウンセラー・臨床心理士)
参加者	学生 16、職員 1

◆ 第2回 「人のやる気を引き出す&巻き込むには？」ワークショップ

日時	9月25日(土) 14:00～16:00
場所	オンライン (Zoom)
内容	人と協力して何かをする際に役立つワークショップ。 人のやる気を引き出したり、活動に巻き込むコツについて学ぶ
講師	西川正氏 (NPO 法人ハンズオン埼玉理事)
参加者	学生 11、職員 1

◆ 第3回 「経験を「つぎ」に活かすワークショップ」～自分の経験を深掘りし振り返り人に伝えるコツを学ぶ～

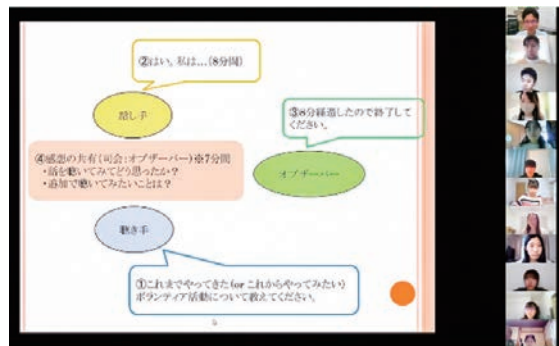
日時	12月27日(月) 14:00～16:00
場所	オンライン
内容	経験をキャリアに活かすためのワークショップ
講師	滝井元視氏 (キャリアコンサルタント)
参加者	学生 12、職員 1



【第1回ポスター】



【第2回講座でのワーク】



【第3回講座の様子】

● 「あなたの想いを企画にしよう！」 ワークショップ

「企画を自分で創ってみたいけれども、どうすればよいのかわからない」という学生の声を受け、ボランティアセンター公認学生団体「りこボラ！」と学生スタッフの2団体のメンバーを対象に2回に分けてワークショップを実施しました。

自分の想いを企画にするまでの過程を説明し、実際に企画書を書いて発表しました。

じっくり作り上げた自分の企画について発表を行い、様々な視点からのコメントをお互いに受けることができました。

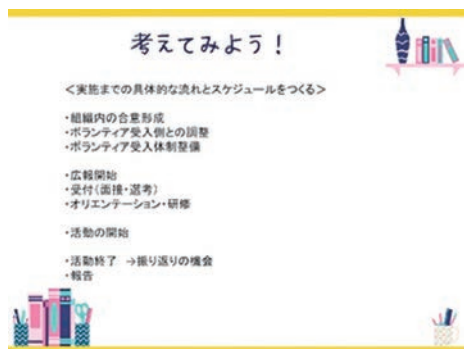
職員だけでは思いつかない、とてもよい企画がたくさんありました。今後は社会課題に取り組みたい、やる気のある学生に対象を広げて行っていきたいプログラムです。

◆ 1回目

日時	10月23日(土) 17:00～18:30
内容	社会課題を解決するために、自分の「何かしたい」企画を創りあげ、実行するまでの過程を学ぶ
参加者	学生14、教職員2

◆ 2回目

日時	12月5日(日) 15:00～17:10
内容	社会課題を解決するために、自分の「何かしたい」企画を創りあげ、実行するまでの過程を学ぶ。実際に書いてきた企画書を精査していく
参加者	学生8、職員1



● 福島県・大熊町より、想いをつなぐオンラインイベント ～被災地の現状を知り、現在を問う～

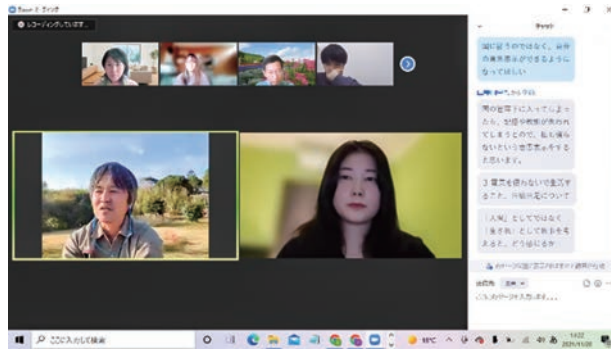
福島県大熊町で被災され、その後語り部として発信されている木村紀夫さんを講師に迎え、帰宅困難地域からのオンラインによるスタディーツアーと意見交換を行いました。

現地からリアルタイムに届く映像や被災当時の写真を見ながらお話を伺ったことで、まるで現地を訪れているようでした。現在の熊町や福島原発、便利な生活、自然との共生など話は多岐にわたり、大変勉強になる有意義なイベントでした。

日時	11月20日(土) 13:00～15:00
内容	福島県大熊町の木村紀夫氏とつないで行うオンラインイベント
参加者	学生12、教職員4



【イベントポスター】



【講座の様子】

4 報告・発表等

● ボランティアセンターシンポジウム

ボランティアセンターおよび学生の活動や想いを発信し、今後の活動に活かしていくため、シンポジウムをオンラインにて実施しました。当初は対面で行う予定でしたが、コロナウイルス感染者数急増の社会状況を鑑み、急遽登壇者も含めてオンライン開催へと変更することとなりました。

第1部の安田菜津紀さんの講演会では、世界や被災地との繋がり方について、関心のない人の巻き込み方について、発信する際の工夫など、具体的な例を挙げながら内容の濃いお話をいただきました。

第2部のトークセッションでは、活動を閉じる団体の学生たちがどのようにその決断を下し、進めていったかを中心に組み立てました。これまで現地や学生と関わってきたボランティアセンターの姿を多くの方に観てもらおうことができたシンポジウムとなりました。

日 時	2022年2月4日(金) 14:00 ~ 16:30
場 所	オンライン (Youtube ライブ配信)
テ ー マ	私たちがいま、繋げたい、伝えたい想い
内 容	第1部 安田菜津紀氏講演会 第2部 活動を収束する学生団体によるトークセッション 第3部 安田さんと参加者の共有の時間
当日運営者	学生 6、教職員 3
ライブ配信視聴者	66 (申込者 117)



「私たちがいま、繋げたい、伝えたい想い」

第1部 安田菜津紀氏講演会

「紛争地、被災地の声を写真で伝える」

中央大学ボランティアセンター
「紛争地、被災地の声を写真で伝える」
安田菜津紀氏講演会
「紛争地、被災地の声を写真で伝える」
安田菜津紀氏講演会
「紛争地、被災地の声を写真で伝える」

第2部 活動を収束する学生団体によるトークセッション

「現状と今後の活動はどういうことか、団体を閉じるまで話そうぞろぞろ」

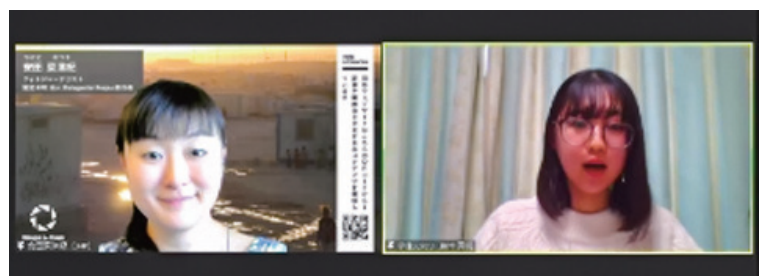
第3部 安田さんと参加者の共有の時間

★詳細・お申込み★→

2/3(土) 14:00

【協賛】公益財団法人 電通賞基金
【主催・お問い合わせ】中央大学ボランティアセンター Tel: 042-676-1447 (info@volunteer-grading.chuo-u.ac.jp)

【シンポジウムポスター】



【第1部 安田菜津紀氏講演会】



【第2部 トークセッション】

2. ボランティアセンター公認学生団体

● 団体概要

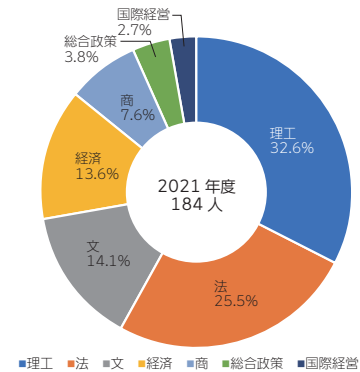
◆ 公認学生団体について

中央大学学生部では、2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、継続的に被災地支援のボランティア活動を行う学生を支援しています。2012年4月からは、「被災地支援学生団体ネットワーク」を設立し、特定の場所と継続的に関係を持つ学生団体を支援する体制へと移行しました。

2017年4月からは、名称を「ボランティアセンター公認学生団体」と改め、被災地に限らず多摩地域や都内等キャンパス周辺での活動を継続的に展開する団体も公認し支援することとしました。

◆ 団体構成

チーム名	創設	活動地	活動内容
はまぎくのつぼみ	2012年～	岩手県宮古市	コミュニティ支援、物産展
面瀬学習支援	2012年～	宮城県気仙沼市	子ども支援
チーム女川	2013年～	宮城県牡鹿郡女川町	コミュニティ支援、物産展
チーム防災	2015年～	日野市	地域防災の啓発
りこボラ!	2016年～	文京区(後楽園キャンパス)	中大生のボランティア支援
チームくまもと	2016年～	熊本県阿蘇郡西原村	コミュニティ支援
ふらっと真備	2019年～	岡山県倉敷市真備町	コミュニティ支援



● スタートアップセミナー (オンライン)

例年4月の授業開始前の新歓活動期間に、ボランティアセンター公認学生団体に所属する2年生以上の学生を対象にした「スタートアップセミナー」を実施していますが、今年度も昨年度に引き続きオンラインでの開催としました。コロナ禍のため、大学で集まることもできず、運営・活動どちらの面でも困難を極める中、学生の帰属意識を高め、各自の目標を設定することを意識して開催しました。

各団体ミーティングで用いることができるオンラインツールを使い、組織運営や学生の今後を意識できるような内容としました。各団体の様子や今後の展開、今年度の目標について、話し合うことができ、大変良い機会となりました。

内容	日時	人数
2021年度の体制、それぞれの現状、2021年度の活動、フィールドノートについて、組織を動かすことについて	5月8日(土)	31

● 決起集会 (オンライン)

ボランティアセンター公認学生団体・7団体を対象に、決起集会を行いました。新入生がそれぞれの団体に加わり少し落ち着いた段階で、公認学生団体としての横のつながりを創り、現時点で必要だと思われる議題を設定しました。

1, 2年生に対しては、個人としての活動目標を設定して自団体・他団体と交流すること、3, 4年生に対しては、現状の課題を共有し解決方法を考え、自団体に持ち帰ることを重視しました。

内容	日時	人数
第1部(3～4年生対象) 情報共有、悩み相談 第2部(全学年のメンバー対象) 顔合わせ、交流、情報共有 第3部(1～2年生対象) 目標設定、交流	9月17日(金) 13:30～17:30	69 (学生63、教職員6)

● 公認学生団体4年生から下級生へ伝えたいこと企画 (オンライン/対面)

毎年卒業前に行うことが恒例となっている、公認学生団体の4年生による下級生たちに向けたプログラムを実施しました。今年は、オンラインと教室でのハイブリッド形式で行いました。

経験豊かな4年生が、1～3年生のボランティア活動における様々な悩みを聞き、アドバイスをしたり相談を受けたりする内容で、下級生にとって有意義な時間となったようでした。

内容	日時	人数
(1) 自己紹介、4年生の紹介、団体の説明、アイスブレイク (2) 4回に分けてテーマを設定し、相談 ・モチベーションをどう維持するか ・活動収束について ・引継ぎの仕方や運営引退後の関わり方 ・メンバーの巻き込み方	3月2日(水) 13:00～16:30	21

①被災地・復興支援活動

● はまぎくのつぼみ ～継続的支援と新しいボランティア～

団体理念

「はまぎくのつぼみ」は岩手県宮古市を拠点として活動しています。「はまぎく」とは宮古市の花であり、花言葉は「逆境に立ち向かう」です。宮古市は過去に数回津波の被害を受けましたが、その度に立ち上がり、東日本大震災にも屈することなく復興を遂げようとしています。「宮古の未来のために学生の自分たちは何ができるのか」を真剣に考え、意見を出し話し合い、復興のお手伝いをしています。「つぼみ」はメンバーや活動参加者一人ひとりを表しています。一人の力は小さなものですが、みんなの力を合わせることで、いつの日か宮古に満開の花が沢山咲くことを願っているという思いがこの団体名に込められています。

震災から年月が経ち、復興への思いや防災の大切さも風化してきています。現地で学び、学童の子どもたちや公営住宅の方々と交流し、物産展やSNS、報告会などで発信しています。震災を忘れることなく未来に繋げていきたいという思いを胸に刻み、支援して下さる方々への感謝とともに活動しています。

団体構成

19人（4年生8人、3年生11人）

活動

メインの活動は春、夏の長期休暇を利用して岩手県宮古市を訪問し、授業のある期間は定期的集まりミーティングを行い、様々な活動を行うための準備をしてきました。メンバー間での長い話し合いの結果、2021年度末で団体を閉じることにしました。2021年度は主に、2022年度2月発行の「はまぎくのつぼみ活動記録誌」の制作を行いました。

大内 尚人（はまぎくのつぼみ 2021 年度代表・商学部 3 年）より

はまぎくのつぼみは、メンバー全員が納得・同意をしての活動収束の判断をすることができました。これまでの活動のまとめである活動誌を作成するにあたり、OBOGや関係者の方々からたくさんのメッセージをいただき、改めてはまぎくのつぼみのメンバーとして活動できたことを嬉しく感じました。活動を支えてくださった全ての方々へ感謝申し上げます。

しかし、2年間訪問することができておらず、これまでお世話になった宮古市の方並びに関係者の方々へ直接お礼ができていないため、残りの大学での時間を使い、自分の足で感謝を伝えに行きたいと思います。また、活動終了後も定期的に宮古市に足を運び、これまでの繋がりを継続させていきたいと思っています。



【福祉施設での物産展】



【企業へのヒアリング】



【活動誌封入作業風景】

団体理念

「学校とも家庭とも違う、子ども達のための第3の居場所をひらく」

面瀬学習支援は、復興のために大人が慌ただしく過ごすようになった中で、地域の方の「子どもが子どもらしくなくなった」という言葉から発足しました。震災から10年が経過した今だからこそ、その影響は見えづらく複雑化しています。

先生や親という「教える・育てる」立場でもなく、友達のような「仲間・対等」な立場でもない、お兄さん・お姉さんのような「ナナメの関係」を築くことで、私たちのひらく多学年交流の場が、子どもの本音を拾う居場所となることを目指します。

団体構成

41人（4年生7人、3年生16人、2年生6人、1年生12人）

活動

私たちは気仙沼市面瀬地区の小学生を対象に、宿題指導と自由遊び、企画を中心として活動しています。

自粛期間は現地へ行くことができなかつたため、オンラインで週に1回程度ミーティングを行い、再度活動の意義や理念について話し合ったり、私たちに何ができるかを考えたりしました。昨年冬には2年ぶりに現地へ行けたため、宿題指導や企画を通して現地の小学生と関わることができました。今後は現地活動から学んだ改善点や私たちがしたい支援の在り方など、団体の課題について話し合ったり、状況を慎重に見極めながら現地へ伺ったりしていきます。

活動	内容	日程	人数
冬活動	子どもの遊び場づくり等	12/26(日)～12/28(火)	31

山本 あかり（面瀬学習支援 2021 年度代表・国際経営学部 3年）より

この1年間は、ひとつ前進することが出来た年だと思います。冬に約2年ぶりに面瀬地区へ行き、現地での活動を行うことが出来ました。私達のことを覚えていて活動に来てくれた子どももいましたし、初めて私達の活動に参加してくれる子どももいました。子ども達との久しぶりの再会を大変嬉しく思いました。

現地へ行くことで私が最も強く感じたことは、現地の皆様の力があってこそ我々の活動だということです。私達の活動を温かく受け入れてくださった現地の方々には本当に感謝しかありません。現地に行くことで改めて繋がった現地の方々とのご縁を今後も大切にしていきます。

また、今回現地に行ったことで、新たに見えてきた問題もありました。それは、子どもの学力が低下しているのではないかとことです。私達の理念を大切にしながら、現地のニーズを活動に反映させられるように今後の活動方針・内容についても議論していきます。



【2021 年度冬活動の様子】

● チーム女川 ～女川に寄り添い、共に歩む～

団体理念

- 継続的に交流促進の場を設け、住民と共に支え合いの輪を築く
震災後、女川町では過疎化と高齢化が一気に進み、それとともに震災前の地域コミュニティが崩壊してしまっているという課題があります。イベントを開催することによってその地区のコミュニティの活性化を図ることが目標です。
- 住民の人の声に寄り添い、女川の今を発信する
コミュニティ支援活動においては、住民の声に耳を傾けニーズをくみ取ったうえで活動を行い、学生と住民が相互に協力し合って形作っていきたくて考えています。また、物産展活動を通して東京の人に女川の現状について知ってもらい、少しでも女川の魅力を伝えられればと思います。

団体構成

7人（4年生1人、3年生6人）

活動

現地での主な活動は、災害公営住宅にお住まいの方を対象にしたコミュニティ支援活動です。集会所でイベントを開き一緒に手芸をしたり、ハンドマッサージをしながらお話を聞いたりといった活動をしています。東京での活動としては、女川町観光協会が都内のお祭りや物産展に出店する際のお手伝いや、白門祭での女川の郷土料理の販売を通して、女川町をより多くの人に発信する活動を行っています。メンバー間の話し合いにより、2021年度末をもって団体を閉じることにしました。2021年度は、活動記録誌の制作を主に行ってきました。

菅野 励盛度^{れおなると}（チーム女川 2021 年度代表・商学部 3年）より

2021 年度も前年度と同じく、現地に赴けないボランティア活動を強いられました。しかし前年度の経験があったため、コロナ禍でのボランティアチームとしての活動をより濃く行えたのではないかと感じています。チームの終了を現地の方やお世話になった方々にお伝えしましたが、当初は直接お会いして伝えることを願っていました。しかし電話やメール、お手紙を通じて私たちの気持ちを相手方にお伝えし、理解し合えるようなコミュニケーションを取れたと思います。

活動記録誌を作成していく上で、チームが行ってきたこと、チームと女川町の皆様との関わり、そして私たちの活動が皆様に支えられてきたことを改めて振り返ることができました。コロナ禍で私たちは活動を終了しますが、チーム女川は自分自身を誇れるような大学生ボランティアを行ってきたと感じています。



【夏活動での交流会】



【夏活動での集合写真】



【オンライン配信動画】

● ふらっと真備 ～支え合いの真備を共に育む～

団体理念

ふらっと真備は、西日本豪雨災害で被災した岡山県倉敷市真備町を拠点にした団体です。多摩と理工の文理混合メンバーで活動を行っています。

「支え合いの真備を共に育む」という理念のもとで、真備の住民の方同士の間関係、住民の方と居住環境全体の地域関係の二つの「支え合い」の関係を、住民の方と学生が「共に」協力して築き上げ、災害前よりも強いコミュニティを創造することを目標としています。最終段階として、学生が抜けても真備の住民の方のみでコミュニティを継続していけるような地域の自立を目指しています。

団体構成

10人（4年生3人、3年生3人、2年生2人、1年生2人）

活動

現地では、主に真備の建設型仮設住宅や地域のコミュニティ施設にて、戸別訪問や地域の方々との交流を通してコミュニティ支援活動を行っています。戸別訪問では、住民の方の現状を把握するとともに、困っていることや心配事を話してもらうことで少しでも不安を和らげることが出来るように努めています。コロナ禍で現地に行くことができない中、オンライン交流会やお手紙などを通して交流を続けてきました。また、12月には約2年ぶりに現地活動を行い、当時に比べて復興が進んだまちの様子を見ることができました。またお世話になっている方々にお会いしました。

活動	内容	日程	人数
倉敷市社会福祉協議会へのヒアリング	オンラインでの倉敷市の現状のヒアリング	10/22(金)	6
倉敷市社会福祉協議会へのヒアリング	オンラインでの倉敷市の現状のヒアリング	10/24(日)	10
冬活動	仮設住宅等でのヒアリング、イベント手伝い	12/17(金)～12/19(月)	2
春活動	スタディツアー、写真洗浄	3/21(月)～3/22(火)	2

新井 晴乃（ふらっと真備 2021 年度代表・理工学部 3 年）より

2年ぶりに現地に足を運び、今の真備を自分の目で確認することができました。実際に街を見たり、現地の方とお話をする中で、被災当時とは真備の状況が大きく変化していると感じました。

特に驚いたのは、被災後に9割の方が街に戻ってきているということです。ただ一方で、住民の方の心の奥に、深い傷が残っていることも否定できません。お話を聞いた大学生（当時高校生）の女の子は、「浸水した家の中を見て言葉が出なかった」、「なぜこの状況で自分は勉強しているんだろうという不安や葛藤の日々だった」と、私たちに率直な思いを伝えてくれました。

これからも私たちは、住民の方と真摯に寄り添い、向き合いながらこの水害を伝え続けていきたいと思っています。そして何より、この活動を通して見聞きしたことを自分事として考え、有事の時に身近な人を守れる人間になりたいです。



【冬活動 写真洗浄】



【冬活動 イベント手伝い】



【オンライン交流会】

● チームくまもと ～私たちがくまもとの為に出来ることを、いまここから～

団体理念

平成 28 年 4 月の熊本地震で深刻な被害を受けた熊本県阿蘇郡西原村の小森仮設団地、山西公営住宅と河原公営住宅で活動しています。昨年、入居者が減少したことにより小森仮設団地が集約されました。仮設団地には期限がありますが公共事業などによりまだ移れない方もいらっしゃる一方で、震災から 5 年以上が経ち、被災者としてではなく前に歩んでいる方も多くなったように感じます。仮設住宅にお住まいの方々の移転に伴い、私たちは 2021 年度をもって活動を収束することを決めました。

団体構成

18 人 (4 年生 4 人、3 年生 14 人)

活 動

現地支援者である社会福祉協議会(西原村地域支え合いセンター)の方々や自治会長、他の被災地支援団体の方たちから継続的に小森仮設団地や山西公営住宅、河原公営住宅の方々の様子を伺い、その方々にアプローチするためのイベント企画、訪問活動などを行っています。仮設団地の入居者数の減少や規模の縮小により、閑散としたような雰囲気を感じ心細く思っている方もいらっしゃいます。定期的に訪れることで、少しでも明るい気持ちになり明日からの活力になるような活動を心がけています。

保崎翔太(チームくまもと 2021 年度代表・経済学部 3 年) より

私が今年度活動を行ってきて感じたことは、「今までの経験を伝えて次に繋げていくこと」の大切さです。3 年生になってから、団体の外でもボランティアのことについて話す機会が増えました。そこで、ボランティアとは何かと考えたり、何かできないかと行動し続けたりしている人の多さに改めて驚かされました。

その中で、私も自身の経験を伝えることで、そういった人達の役に立てるのではないかと考えました。そしてそれが結果として何か困っている人への助けや、今後起こるかもしれない災害などへの対策に少しでも繋がるのではないかと思いました。これからは私も今までの経験を伝えて次に繋げていくことを大切にしたいと思います。

最後になりますが、チームくまもとは、今年度で団体としての活動を収束します。これまでの活動にご理解とご協力を頂いた皆様、チームくまもとの皆さん、そして西原村の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



【出発前の集合写真】



【災害公営住宅でのイベント】



【集会所での住民の方との交流】

※ 2019 年度活動より

② 地域活動

● チーム防災 ～「学生×地域×防災」で自助・共助の力を高める～

団体理念

「災害時に生き延びる、そして災害後に安心して暮らす」という最終目標に向かって、チーム防災は「防災活動を通じて学び合い・活かしあい・自助共助の力を高め合う」という理念に従って活動しています。東日本大震災の被災地にボランティアに行っていた先輩方が東京での防災活動の必要性を感じ、この団体が発足されました。その意思を受け継ぎ、子供から自治体の方まで幅広い年代の方と触れ合って、自分の住む地域で起こり得る災害について一緒に考え、一緒に備えていきます。

団体構成

33人（4年生4人、3年生8人、2年生12人、1年生9人）

活動

コロナウイルス拡大前は、日野市のイベントへの参加や小中学校でゲームを通すことで防災の知識を伝え、私たち自身の理解も深めてきました。また、他の自治体の方々からも依頼を受け活動をしていました。2021年度はコロナウイルス拡大の影響で以前のような対面での活動に制限がかかってしまいました。しかしその中で、メンバー内での勉強会や小学生に向けたクイズ大会をオンラインで実施するなど工夫を重ねて活動を進めてきました。2022年度の活動も状況に合わせて臨機応変に対応して活動を進めていく予定です。

活動	内容	日程	人数
「防災王」第1回決定戦！！	日野市主催オンライン講座における防災に関するクイズ大会	8/28(土)	13
日野市第6小学校 防災授業	小学生対象にした防災クイズなどを盛り込んだ防災授業	10/16(土)	11
ボラネット多摩・イベント	商業施設にて、地域の方々を対象にした防災ゲーム実施	3/12(土)	10

西 直樹（チーム防災 2021年度代表・商学部2年）より

「人は何かを失ってからその失ったものの大切さを知る」

これは皆さんの経験上、心当たりがあるのではないのでしょうか？例えば、腕を骨折してから5体満足である事のありがたみを知る。例えば、災害で人を亡くしてから命の大切さに気付く。前者と後者の違いは失ったものの取り返しがつかないことです。折れた骨が元通りになることはあっても災害で失った人の命が戻ることはありません。だからこそ防災への意識を普段から持っておくことが非常に大切です。

2021年度は昨年に続きコロナウイルスに翻弄される時期が多かったですが、そのことを言い訳にして「活動が出来なかった」とならないように、今だからこそできる事を探して活動してきました。外部活動が減ったとしても防災について学び続けることの必要性がなくなることは絶対ないと私は思います。

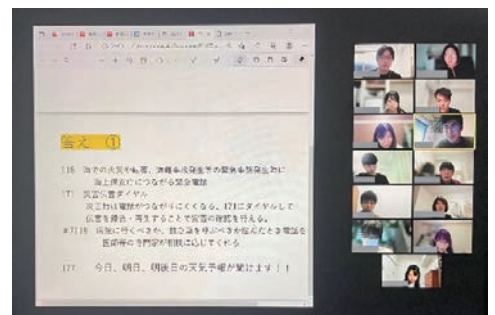
来年度も先が読めない中での活動が予想されますがチーム防災一同、地に足を付けて進んでいきます。



【イベント後の集合写真】



【防災授業】



【防災王決定戦】

● りこボラ！ ～理系でもボランティアを日常に！～

団体理念

「りこボラ！」は「理系でもボランティアを日常に！」の略称から名づけられました。理系学生の中には最初からボランティア活動に興味を持っている人は少ないかもしれませんが、しかし理系だからこそ、地域や社会の問題に論理的・科学的に取り組む、貢献できることはきっとあるはずです。

また、ボランティア活動をしたときに得られる気付きや充実感を、自分だけの思い出で終わらせることはもったいなく、人と共有することで、考えをさらに深めることや新たな気付きを獲得することもできます。その気付きは自分の次の行動や活動に繋がるでしょう。そしてまた新たな経験をすることで新たな気付きが得られます。理系ならではの活動を目指し、経験と学びのサイクルを作ること。この考えを胸に、多くの方の支えのもとで、活動を続けていきます。

団体構成

141人（3年生36人、2年生42人、1年生63人）

活動

私たちの活動は以下の4つです。

- ① **ボランティア活動**…地域の方々や社会人、他大学生と関わりながら多様な活動を目指しています。
- ② **イベント企画**…ゴミ拾いイベントや交流会などの企画を行い、ボランティア初心者が参加しやすい環境をつくりまします。
- ③ **ボランティア紹介**
…団体理念をもとに多くの理工学部生がボランティアを経験できるように様々なボランティアを紹介しています。
- ④ **ボランティアセンターの学生スタッフとしての役割**
…多摩キャンパスにあるボランティアセンターと後楽園キャンパスの学生の架け橋になるよう努めています。

活動	内容	日程	人数
第1回ボラカフェ（オンライン）	雑談形式で行う体験談の共有、懇談会	4/24(土)	16
総会1（オンライン）	りこボラ！の運営説明、団体理念の共有、目標設定等	5/15(土)	28
総会2（オンライン）	りこボラ！の運営説明、団体理念の共有、目標設定等	5/16(日)	75
夏の活動 事前勉強会（オンライン）	ボランティアについて、心構え、参加するボランティアの背景、課題、目的、個人の目標設定と共有	7/27(火)	20
ボランティア相談室【教育系】（オンライン）	運営メンバーがボランティアについての相談を受け、ボランティアの提案やアドバイスを行う	8/28(土)	3
ボランティア相談室【スポーツ系】（オンライン）	運営メンバーがボランティアについての相談を受け、ボランティアの提案やアドバイスを行う	8/29(日)	5
ボランティア相談室【地域・福祉系】（オンライン）	運営メンバーがボランティアについての相談を受け、ボランティアの提案やアドバイスを行う	8/30(月)	6
ボランティア相談室【環境系】（オンライン）	運営メンバーがボランティアについての相談を受け、ボランティアの提案やアドバイスを行う	8/31(火)	4
夏のボランティア活動（ちんじゅの森）（中止）	自然と共存する生活の知恵から学び、次世代に伝え繋げていくことを実践するNPO法人ちんじゅの森と協力し、農作業や草刈りを行う	9/2(木)	—
夏のボランティア活動（さきちゃんち）（中止）	子どもからお年寄りまで、地域の人々が集い皆にとって居心地の良い環境をつくる「ワークスペースさきちゃんち」の立ち上げ準備の手伝い	9/2(木)	—
夏のボランティア活動（春日臨時保育所）（中止）	後楽園キャンパス近くの春日臨時保育所に通う5歳児7人が楽しめるような企画を準備し、遊ぶ	9/14(火)	—
夏のボランティア活動（坂道の会）（中止）	後楽園キャンパス周辺、富坂～六角坂の植栽の剪定を定期的にされている「坂道の会」の植栽の手入れと掃除の手伝い	9/14(火)	—
クリーン作戦	後楽園キャンパス周辺の清掃	11/13(土)	19
第2回ボラカフェ（オンライン）	雑談形式で行う体験談の共有、懇談会	11/21(日)	16
クリーン作戦	後楽園キャンパス周辺の清掃	12/12(日)	19
合宿	運営・活動についての話し合い	12/26(日)～12/27(月)	19
Project COOP X りこボラ！対面企画	後楽園キャンパス周辺のごみ拾い	3/1(火)・3/8(火)	49

由見 知輝（りこボラ！2021年度代表・理工学部3年）より

昨年度はオンライン活動が中心となっている中、対面で活動できる機会も増え、りこボラ！が大きく成長する一年になりました。秋のクリーン大作戦では1年生から3年生まで多くのメンバーが交流を深め、キャンパス周辺の清掃も行うことができました。他にもボラカフェや外部団体の企画への参加、もちろんオンラインでの交流会なども行っています。また、活動を広く知っていただくためにtwitterやInstagram等の積極的な活用を始めています。興味がある人はぜひフォローをよろしくお願いたします。りこボラ！ではこれからも「自分たちが今何をできるのか」を考えながら理念の達成に向けて活動を続けていきます。

ボランティアは参加するだけでなく、一から企画することでより多くのことを経験できる活動です。自分の成長、りこボラ！の成長のために私たちと一緒に活動してみませんか？



【合宿にて】



【クリーン作戦】



【活動後の集合写真】

③ 学生スタッフ

ボランティアセンターでは、2021年度より学生スタッフ制度を開始しました。第1期生は10人でスタートし、新たなメンバーを迎えるために、ビジョンや心得を創りました。センターの教職員と一緒に、ボランティア活動を推進し、企画運営していく新たな仲間を募集しています。

団体構成

10人（3年生3人、2年生3人、1年生4人）

活動

- ・ボランティアプログラムの企画・運営
- ・地域ボランティア活動の推進
- ・ボランティア活動を推進する活動全般

活動	内容	日程	人数
顔合わせ会	他己紹介、オンラインボランティア・夏ボラについて、後期の企画について	7/20(火)	10
ボランティアセンター長との顔合わせ会	新たなセンター長との顔合わせ会	11/10(水)	10
学生スタッフ 合宿	オリンピックセンターに宿泊して行う今後の活動についての話し合い	12/26(日)～12/27(月)	10

ビジョン

多様な個性とつながり、新たな世界に挑戦する。



学スタ五か条

其の一、学生主体

それぞれが率先して自分の想いを行動に移すべし

其の二、社会課題に触れる

社会課題に触れて、多様なバックグラウンドを学ぶべし

其の三、楽しむ

人との繋がりを大切に、活動を楽しむべし

其の四、振り返り、言語化

経験を言語化し、次に生かすべし

其の五、魅力発信

人とつながり、新しい価値観を得る喜びを学生に伝えるべし

中央大学（C）
ボランティア（V）
センター（C）
の頭文字と同じです◎



【合宿での様子】



【集合写真】

協定・助成金/メディア掲載

● 協定（敬称略）

名 称	対象団体/活動
公益財団法人 日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	ボランティアセンター
社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団	ボランティアセンター

Gakuvo 様には、オンライン講座開催においての講師謝礼金、公認学生団体や学生スタッフの現地活動における交通費や宿泊費を助成していただきました。

オンライン講座では、多くの講師の方々をお招きすることができ、とてもありがたく感じております。

朝日新聞厚生文化事業団様には、宮城県丸森町の春ボラプログラムにおける、学生の交通費や宿泊費を助成していただきました。このような状況でも、実施に協力していただき、また素早く対応して下さったこと、改めて御礼申し上げます。

● 助成金（敬称略）

名 称	対象団体/活動
公益財団法人 電通育英会	ボランティアセンター

電通育英会様におかれましては、2020 年度活動費の 2021 年度への繰り越しをお認め下さり、ありがとうございました。オンライン講座やシンポジウム開催においての講師謝礼金、公認学生団体の現地活動における交通費や宿泊費を助成していただきました。改めて御礼申し上げます。

● メディア掲載

新聞・テレビ等 掲載

メディア名	内 容	掲載 / 放送日
熊本日日新聞	(チームくまもと) 中央大生、西原村での支援活動記録 学生と村民つなぐ記念誌	2021 年 5 月 26 日
IKUEI NEWS	(ボラセン・学生スタッフ) 学生ボランティア世代間継承の仕組みづくり	2022 年 1 月 20 日
NHK NEWS	(丸森町春のボランティア活動) 丸森町で台風被災地支援 東京の大学生がボランティア	2022 年 3 月 3 日
宮城テレビ放送	(丸森町春のボランティア活動) ミヤギ news every.	2022 年 3 月 3 日
東北放送 (tbc)	(丸森町春のボランティア活動) N スタミやぎ	2022 年 3 月 3 日

中央評論

No.	掲載者	内 容	掲載時期
315	山本聖菜 (法・面瀬学習支援/ふらっと真備)	気仙沼と私の三年間	2021 年 4 月
	辻七夕香 (商・チーム女川)	女川町でのボランティア活動とチームを終了させるということ	

草のみどり 掲載

Vol.	掲載者	内 容	掲載月
325	滝澤佑介 (経・チームくまもと)	現地の方とのつながり ～継続して活動することの大切さ～	2021 年 5 月
326	藤澤史織 (法・チーム防災)	[防災] に向き合う	2021 年 7 月
327	榎本由波 (商・はまぎくのつぼみ)	ボランティア活動で得られた経験と成長	2021 年 9 月
328	山口菜奈 (法・面瀬学習支援)	活動しながら考え続けたボランティアの役割	2021 年 11 月
329	阿佐美有沙 (法・ふらっと真備)	一私たちにできることは～コロナ禍での活動	2022 年 1 月
330	小笠原萌 (法・チーム防災)	【座談会】 ボランティアで得た経験を糧に社会へと羽ばたきます！	2022 年 3 月
	甲斐千尋 (商・チームくまもと)		
	小林俊郎 (法・はまぎくのつぼみ)		

その他冊子（「ボランティア情報 4 月号」 / 社会福祉法人全国社会福祉協議会発行）

No.	掲載者	内 容	掲載時期
527	開澤裕美 (ボランティアセンター・コーディネーター)	地域共生社会づくりに向けた大学 VC・社協 VC の連携を考える～コロナ禍での活動を通して～	2021 年 4 月

行動する知性。



発行日：2022年4月

発行者：中央大学ボランティアセンター